



東京都高等学校数学教育研究会  
 事務局 都立本所高等学校内  
 事務局長 小山 克之  
 発行所 都立千歳丘高等学校内  
 編集発行人 大島 和華子  
 都数研HP <http://tosuiken.jp/>

## 令和6年度 定期総会

令和6年度総会が、令和6年6月1日(土)14:00から都立多摩科学技術高等学校にて行われた。新型コロナの影響も無くなり、対面開催も今年で3年目を迎える。議事の流れは以下の通りである。

1. 会長挨拶
2. 令和5年度 事業報告
3. 令和5年度 決算報告
4. 令和6年度 役員および理事
5. 令和6年度 事業計画
6. 研究集録における広告について(報告のみ)
7. 令和6年度 予算

決算報告について、「通信費が0になっているが、これはどういうことか」という質問があったが、これは「印刷会社の方で合算した請求書になった都合上、通信費は0になっているが印刷製本費に加えられている」との回答であり、監査の時点でも同様の指摘があった。その後、決算報告は無事に承認された。

また、右側に主な役員一覧を載せる。なお、副会長が1人だが、現在私学か国立で探している最中である。

会長挨拶 会長 森田 常次(都多摩科学技術高・校長)

昨年度に引き続き、今年度も東京都高等学校数学教育研究会の会長となりました東京都立多摩科学技術高等学校長の森田常次です。これまでの都数研の活動方針を継承、発展できるよう邁進してまいりますので、よろしくお祈りします。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、各校では「With コロナ」、「After コロナ」として、コロナ禍以前の教育活動を取り戻しとともに新たな教育活動の展開を推進されていることと存じます。また、令和4年度入学生から段階的に実施されてきた新学習指導要領等の実施、観点別学習状況の評価への対応、大学入学共通テストの受験に向けた指導、生徒一人1台端末などへの具体的な取組を実践されていることと存じます。このような中、都数研会員の先生方には、都数研の活動に御理解、御協力を賜り感謝申し上げます。

今後の教育活動において、私たちには「生徒一人一人が自分自身の学びを振り返り、学びの質をどのように高めているか、より深い学びに向かっているかどうか」を捉えていくことが求められています。

会 長	森田 常次(多摩科学技術・長)
副 会 長	石崎 規生(桜修館・長)
事 務 局 長	小山 克之(本所・長)
事務局次長	栗田 直樹(第五商・副)
研究部長	横田 雅博(立川国際中等・長)
副部長	岩間 潤(富士付属中学・副)
定 通 部 長	東 達康(八丈・長)
編 集 部 長	大島 和華子(千歳丘・長)
副部長	高寺 寛樹(新島・副)
	米山 琢児(東久留米総合・副)
監 事	萩原 聡(日比谷・長)
	梅原 章司(調布北・長)

左記の「研究集録における広告について」という議案だが、東京都教育委員会からの予算配布があるため、令和6年度から研究集録における広告を廃止したいとの報告があった。これは総会では報告に留め、後の理事会で決定される。

その他の議事は全て承認され、研究発表に移った。発表に関しては次のページに記載する。

また、今年度から「大学入学共通テスト」が本格導入され、様々な点で変化がもたらされます。

今年度が新学習指導要領の完成年度であるため、令和5年度に引き続き令和6年度も東京都高等学校数学教育研究会研究テーマを「改訂高等学校学習指導要領全面実施に向けた数学教育の研究：観点別学習評価や大学入試改革に向けた数学学習を目指して」に設定しました。

研究部では、学習指導法分科会、大学入試分科会、ICT分科会、数学I分科会、定通分科会で授業研究を中核とした議論を進めていきます。また、編集部では「研究集録」の発行や各分科会の成果を年3回発行の「会報」にまとめ、都数研のホームページに掲載することで、全国に向けて発信してまいります。

都数研では今年度も、変化の激しい現代を生き抜く生徒に、「自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい」という気持ちを大切に、会員の先生方による研究を推進していけるよう、出来る限りの対応してまいりますので、どうぞよろしくお祈り申し上げます。